２０２６年（令和８年）　３月２８日　土曜日

東奥日報　３１面　掲載

兄の支え力に聖地でプレー

光星・仲里 背中追い沖縄から入部

小学時代に同じチームでプレーした仲里さと兄の瀬さん（家族提供）

準々決勝の中京大中京戦、9回表、2死一、二塁のピンチで中堅を捕球し、駆け足でベンチに向かう八学光星の中里手・仲里＝27日、甲子園球場

第98回センバツ高校野球

準々敗退「夏また戻ってくる」

第98回選抜高校野球大会（センバツ）に出場した八戸学院光星の中堅手・仲里悠（17）＝3年、沖縄県出身＝は、地元うるま市から2千キロ以上離れた同校の門をたたいた。八戸市での慣れない生活を送る中、支えになったのは2024年に同校が出場したセンバツで捕手としてベンチ入りした兄・瀬さん（19）の存在。27日の準々決勝は無安打に終わったが、「人としても尊敬するお兄ちゃんに、憧れの舞台でプレーする姿を見せることができた」と汗を拭った。

（柳方紘樹）【本紙1面】

兄の背中を追いかけ、小学1年で野球を始めた仲里。中学時代は県外の強豪校への進学に目もくれず、「友達と一緒に楽しく野球をやりたい」と地元の高校への進学を考えていた。

ただ、複数校からスカウトを受ける中で、新たな目標になったのは聖地・甲子園でのプレー。兄が先に進み、自身もスカウトを受けた八学光星への進学は、仲井宗基監督（55）の「差をつけず、選手全員に同じ練習をさせる」という指導方針が決め手だった。

ただ、待ち受けていたのは八戸市での慣れない寒生活。体験したことのない冬の寒さ！「もう沖縄に帰りたい」と泣き顔を見せられなくなり入寮前に行われた体重は62キロまで減少した。

それでも「野球に真剣に練習熱心」な兄の姿を見て、日々の練習に励み続けた。瀬さんが引退した後も努力を重ね、2年春には打撃が上り調子に。しかし夏を前に突然、打撃不振に陥った。焦りは次第に投球へと変わり「ピッチャーが投げたボールが自分に襲ってくるようだった」。苦いた打撃フォームも分からなくなり、バットを振ることすら難になった。

仲里は現在、東北高校大学北海道オホーツクでプレー。地元沖縄での春季キャンプ参加のため甲子園での応援はかなわなかったが、キャンプの合間に弟の活躍をテレビで見届けた。

初戦後、兄からラインで「いい姿を見せてくれた」と感謝した。

（柳方紘樹）

逆転信じ大声援　光星スタンド

八学光星の三塁側アルプススタンドには、吹奏楽部やチアリーディング部を中心とした応援隊約60人と野球部員、保護者らが集結。「大丈夫」「踏張れ！」と最後までナインに大きな声援を送り続けた。

1点を先制された直後の攻撃で敵失により同点とすると、スタンドは大盛り上がり。応援団長も務める主将中村は「ここまで粘り強く勝ち上がってきた。いつも通りやれば大丈夫」と信じ、応援を続けた。しかし五回に勝ち越しを許すと、後半は思うように打線がつながらず敗戦。奮闘したナインへ、スタンドからは温かい拍手が送られた。

1番打者が中学時代に所属していた札幌新琴似リトルシニアの選手約30人は、関西遠征の合間に甲子園球場へ駆けつけた。菅沼が3年の時に1年だった佳谷雄輝さんは「身近な先輩が甲子園に出場して誇らしい気持ち」と笑顔。生徒指導部長の菅（65）は「初戦の本塁打はしびれた。後輩たちにかっこいい姿を見せてくれた」と感謝した。

1回裏、同点に追いつき、盛り上がる八学光星の三塁側スタンド＝甲子園球場

光星留守部隊　八戸から応援

甲子園球場で開催されている選抜高校野球大会で、八戸学院光星ナインが中京大中京（愛知）との準々決勝に挑んだ27日、八戸市のマチニワや八学光星高校で戦況を見守った。

9回表の守りを無失点で終えたナインに拍手を送る生徒ら＝八戸市のマチニワ

パブリックビューイングが行われたマチニワでは、同校生徒や市民ら約30人が観戦。最終回の攻撃まで、祈るように試合の行方を見つめた。1点差のまま試合は、生徒、市民らがテレビ中継を見守った。選手たちの奮闘及ばず、惜しくも4強には届かなかったが、両会場からは敗戦を戦い抜いたチームに盛大な拍手が送られた。

熱戦を繰りひろげたナインをたたえ、メガホンを鳴らす八学光星高の生徒ら＝同校

パブリックビューイングが行われたマチニワでは、生徒43人がメガホンを手にナインを応援。九回表、2死一、二塁の場面で投手北口が代打者を打ち取ると、会場の熱気は最高潮に。その裏の攻撃で逆転はできなかったが、生徒らはナインの健闘をたたえた。

松田健吾さん（17）は「いいところまで行っただけに、悔しい。全体的にミスが多く、打撃も思うわなかったので、夏は頑張ってほしい」と期待を込めた。

（正井昂平、中村隼希）

「もっと自信を持ってプレーしよう」との言葉。準々決勝で敗れはしたものの、兄を超える8強入りを果たし「お兄ちゃんの言葉通り、自分に自信を持って戦うことができた」と仲里。「まずは『優勝できなくてごめん』と伝えたい。チームの中心的な選手になり、夏にまた戻ってくる」とさらなる飛躍を誓った。

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです